

# 便利で残念だったこと、 ありませんか？

京都先端科学大学

川上 浩司

先月から「不利益」の話を始めています。不便で良かったことはないですか、というお話です。先月に紹介した不利益事例（不便だからこそその益があったモノやコト）は、徒歩通学と安宿のテレビにまつわるものでした。少し思い出していただきましょう。

私が不利益事例のコレクションを始めた四半世紀前のこと、いつも通学に使っていた原動機付自転車（原付き）が壊れたために仕方なく不便な徒歩通学をした

はもしかして」と気づいて「フラットと食堂に入ってみる／隣の奴に話しかけてみる」ことを許してくれていることです。これらが「不利益」だと考えます。

先月に引き続き今月も、同様に学生ネタを続けます。先月の学生より少し時代は下り、今頃は四十歳前後になつてゐる学生です。当時彼が卒業を控えた頃、就職氷河期が到来していました。私の研究室は京都大学の工学部にありましたが、その学生でも内定を取るのに苦労していました。ところが、かなり早い時期から外資系の内定をいくつも取つてくる学生がいました。研究指導教官としては、研究をほったらかして就職活動ばかりしていることに苦言を呈そうかと思つていましたが、就活の成果には驚きで

ら、原付きのときには気にもとめなかった食堂にフラットと入ってしまった、結局はお気に入りの食堂が一つ増えたという学生がいました。同じ頃、ヨーロッパをバックパッカーツアーした学生がいました。そのときの安宿ではロビーに一台しかないテレビを宿泊客がシェアする不便な方式だったが、隣でワールドカップを一緒に見ていた外国人と盛り上がりつつ今でも友達、とのこと。両方ともに共通するのは、不便な方式だからこそ「おや？ 食堂があるぞ／隣に座っている奴

す。ちょっとコツを聞いてみると、「新聞を取るのを止めたのが良かったのかなあ」とのこと。最初は「いや、逆だろう、新聞は、読めよ、就活生」と思つたのですが、彼は続けます。

以前は、下宿で寝ていても新聞が配達され、支払いもクレジットカードから引き落とし。新聞など読まずに下宿を出るのがいつものことだったそうです。この方式を止めて、彼は毎朝研究室に来る途中にコンビニに寄り、新聞を買うことにしました。そうすると、さすがに、わざわざ買った新聞を読まずにおくことはできず、研究室に着いたらザッと目を通すことになります。これで時事に強くなり、就活での面接がへっちゃらになったのが、就活がうまくいった一因かもしれ

ない、というのが彼の弁です。私としても、さもありなと思います。不慣れた方式が、新聞を読むことを動機づけていたのですね。これも不利益かと思えます。

研究室の彼の机の上にはうず高く積まれて研究を阻害していた古新聞を「片付けろよ」との思いで見えていたのですが、実はこれは彼にとっては大切な就活の相棒だったようです。一方で、今の学生にとってはネットニュースが主流です。ネットで読めばいいのだから、新聞を取る必要もなければ、コンビニに買いに行く必要もありません。便利ではありませんが、残念な気がします。いつでも簡単に知れるのだから、今わざわざ読む必要もないニュースになっている気がするのです。検索をすれば気になるニュースが

とになりました。

このように。便利で残念なことの一つに、簡単便利だとかえって人を動機づけないという現象があります。これに対して、コンビニ新聞の学生のように、あえて不便にすることによって、残念な状況をひっくり返すことができる、というのが今月の「不便の益」でした。ここで得られた益は「主体性が持てる」です。学生と沢山の不利益事例を集めて分類整理した結果得られた「八つの益」の一つです。先月は、八つの益の内の「発見でき

ンポイントで表示されるのだから、それ以外のニュースをわざわざ読んで回るモチベーションが湧かないのではないかと危惧します。

便利だけでも残念といえば、同じく学生ネタですが、時代はかなり遡さかのぼって私自身が学生だった頃の話です。私が大学一回生のころは、毎日の通学で銀閣寺の近くを通っていました。銀閣寺といえば観光名所ですし、いつか入ってみようかなという気持ちは、ありました。ただ、毎日横を通っているのに、いつでも気が向けば入れるわけです。今日わざわざ入る必要はないのです。結局、卒業した後振り返って見ると、銀閣寺に一度も行かなかったことに気づき、京都を離れた卒業後にわざわざ銀閣寺にお参りするこ

る（オヤっと気づく）」と「工夫できる（フラットやってみる）」を紹介しました。来月は、残る五つの益の内の一つを、紹介する予定です。

主体性が  
持てる



工夫できる



発見できる



川上浩司（かわかみひろし）

一九六四年生まれ。京都大学工学部、同工学研究科修了。京都大学助教授・特定教授などを経て京都先端科学大学工学部教授。不利益の研究で学会論文賞・出版賞多数。著書に『不利益という発想』（二〇一七）など多数。